

シベンゾリンによる左室内圧較差の著減した S 状中隔の1例

浜松労災病院 循環器科

香川 芳彦、山田 美保、篠田 英二、神田 宏、高橋 正明

症例は 70 代女性。2009 年 12 月初旬、仕事中に職場の同僚に冷や汗をかいて呼びかけに応じにくいのを発見される。すぐに意識は改善した。過去にも 2 度同じ経験をしている。心電図では洞調律で右脚ブロック、左軸変位の 2 枝ブロックであった。経過観察入院をおこなうも異常を認めなかった。2010 年 1 月中旬、再び昼食後に意識消失をみとめ受診される。新たに収縮期雑音を聴取した。Sigmoid septum により左室流失路狭窄および MR を認めた。HOCM と同じ病態と考え、シベンゾリン内服を開始後、圧較差の著明な軽減をみとめた。以降は意識消失を認めなかった。

Sigmoid septum により左室流失路狭窄のため HOCM と同じ病態をきたし、シベンゾリンが著効した症例を経験したため報告する。